

2
令和2年

心の生涯学習誌
れいろう

THE INSTITUTE OF MORAL
LOGY



〈れいろうカレッジ〉 今月のテーマ

みるみるパワーがわいてくる 「おかげさま」の秘密

馬野豊子

モラロジー研究所 生涯学習講師

伊勢雅臣

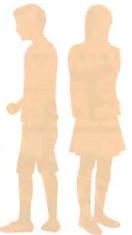
メールマガジン
「国際派日本人養成講座」編集長

〈思春期の処方箋〉

AI時代にこそ子供に
体験させたいことは? 高濱正伸

思春期 の処方箋

2



反抗し、秘密を持ち、葛藤で心をヒリヒリさせている思春期の子どもたち。この時期の接し方について悩むすべてのお父さんお母さんに、「花まる学習会」の講師たちが「心の処方箋」をお届けします。

恋愛よし、部活よし。

想像力とたくましさは育つ。 人とのかかわりの中で

恋愛は 最高の鍛錬の場

恋愛は、人間関係に必要なすべてのスキルを磨くことができる経験といつても過言ではありません。『ダークサイド・スキル』(日本経済新聞出版社)の著者、木村尚敬氏も『SD20 20歳からのセルフデザイン』(エッセンシャル出版)で、そのことについて触れています。

人間は、常に愛を奪い合っています。「大好きなお母さんに認められない」「先生が僕のことを見てくれない」「部長からほめられない」……。そこに振り回されすぎない強さも必要です。それは、ある種の「鈍感力」といえるでしょう。思うように相手から愛がもらえないなくても搖るがないことです。それがその人自身の核となり、魅力となり、人を引きつける強さになると考えます。

人とのかかわりの中で生きていくのが「人生」。そう考えると、「恋愛」は最高の鍛錬の場です。相手を思えば思いうほど傷つけ合うこと



**過程を味わうこと
それが部活の価値**

私は高校から野球部に入りました。必死に先輩たちに食らいつくだけでしたが、当時の真剣さといつたら、きっと誰にも邪魔できなかつたでしよう。「本気で」とは、誰かに指示をされてできるものではありません。部活は自分で選ぶからこそ主体的になれます。勝つたり、賞を取りたりしたらうれしいから、ますますのめりこんでいきます。そこには仲間の存在があるので、

個人の競技や作品であっても、ひとつのチームとして向き合えるんですよ。『けがをして試合に出られない』『頑張つても選手になれない』『こいつのせいで負けた』といったことがあるかもしれません。でも、問題を乗り越えようとするその過程でこそ、人間力が磨かれていきます。とことん話し合つて相手の想いに触れる、責任を負うという経験もするでしょう。その過程こそが、部活の価値であり、それは仕事にも生きる経験です。

思春期に人間の生臭い苦しさを味わっている子は強いです。その経験がどれだけあるかで、社会に出たときのたくましさに大きな差が生まれます。

野球部の仲間とは、五十年近くたつた今でも親交があります。つらくて苦しいことを一緒に経験することが部活の醍醐味で、それによつて人と人とがつながることができるのです。

親としてできることは限られていますが、親は、さまざま経験を経て成長していくわが子が、ふつと力を抜いて安心できる居場所であり続けたいですね。

花まる学習会 代表
たかはまさのぶ
高濱正伸

昭和34(1959)年、熊本県人吉市生まれ。算数オリンピック作問委員。日本棋院理事。平成5年に「メシが見える大人に育てる」という理念のもと、作文・読書・思考力・野外体験を主軸にすえた学習塾「花まる学習会」を設立。子育てに悩む母親の救世主とも称される。『伸び続ける子が育つお母さんの習慣』(青春出版社)ほか著書多数。



人工知能(AI)の発達がさまざまな仕事を自動化し、十年前と比べると生活は一変しました。それ以上の劇的な変化も起ころうる時代。その中での子育ては、子どもにどんな力をつけさせるべきか、悩みの連続でしよう。

これからの社会で必要なものを考えていくと、結局は「人間力」に行きつきます。医師を例にあげると、今後は的確な診断を下せるAIが台頭してくるでしょう。しかし、「最近寒くなつてきただれど、去年痛めた腰は大丈夫? お孫さんが来る時期だから、休んでもいられないし、大変でしよう」と、相手に寄り添うことはAIにはできません。このように「思いを馳せる」部分が、人間にしかできない仕事として特化されていくはずです。AIにはない人間力を磨くことが、これから時代を生き抜く秘訣といえるでしょう。

では、その人間力をどう育てるか。その具体策が、「恋愛」と「部活」の二つだと考えています。

Aー時代にこそ “生きた”体験を